

はじめに：貨幣の銘文と文字

ここでシルクロードから離れ一般論として、広く貨幣の銘文と文字にどのような特徴を認めることができるか確認しておきたい。

さて、貨幣であれば古代のものであれ現代のものであれ、ふつうなにかしらの銘文がある。一字だけのものもあれば、単語・短文のものもあれば、比較的長い文もある。いまかりに、紀元前二世紀の貨幣銘文を任意に取り上げ、ながめてみると次のようである。

■中国漢代には前漢の武帝が発行した五銖銭がある。これには片面に漢字・漢語で“五銖”と貨幣単位のみが書かれている。



■インド西北の所謂インドグreek朝のメナンドロス王が発行した貨幣がある。表にギリシア文字・ギリシア語で“救済者たる王メナンドロスの”とあり、裏にはカローシュティ一文字・プラークリット語で“救済者たる大王メナンドロスの”とある¹。



表



裏

¹ 中村 2004 参照。

このように銘文と言っても、それぞれに随分とおもむきを異にする。それでは、貨幣の銘文と文字を取り扱うことの便宜とおもしろさはどこにあるのだろうか。いま思いつままに挙げると次の四点となる。

- (1) 資料として完結している。
- (2) 同種のもものが複数ある。
- (3) 規範的な表現形式や字形字体となっている。
- (4) 比較的容易に年代と地域を特定することができる。

■貨幣の銘文は貨幣という小さな面のなかで完結しているのがふつうである。したがって、製作者はこれのみで完結した意味を意図したはずだと、読み手は確信することができる(1)。たとえ判読に着手した時点で読めなかったとしても、これは読み手に安心感をあたえる。もっとも、貨幣自体が欠落していたり摩滅していたりして、銘文の一部が見えない場合もあるが、そのような場合は、同種の貨幣が多数発行されているわけであるから、互いに参照することにより完全な銘文を復元することができる(2)。

■次に、規範的であるという点であるが、貨幣は特別な事情がないかぎり、同一規格のものを大量に生産し流通させることを目指すわけであるから、その銘文を記すために選ばれる文字と、その文字を用いた表現形式の適否について、通常文字を記すときよりも念入りに発行者によって検討されるであろう。その結果、規範的な字形字体や表現形式を採用することになるわけであるが、これまでの規範すなわち習慣的な型から外れるような場合には、それは偶然の所産ではなく、発行者の何らかの意図がこめられていると想定することができる。文字や表現形式について発行者の共通の意図(あるいは規範意識)を考察することができるという点で貨幣の銘文と文字は興味深い存在である(3)。

■最後に年代と地域という点である。貨幣の銘文に年号や権力者の名前が記されている場合、比較的容易に貨幣が発行された年代を定めることができる。もっとも、影響力の大きな人物の発行に係る場合は、その死後も同一の貨幣が発行され続けるということはよくあることで注意を要するが、大きさや重さ図像など貨幣がもつ他の情報により、ある程度は時代を特定することができるようである。同様に発行地域も銘文の内容や記号により特定し得る場合がすくなくない(4)。いずれにしても、歴史書や旅行記や散文・小説などの同時代の記述をも参考にして発行年代と発行地域は決定されることになる。また、年代のわかっている碑銘と貨幣の文字との比較をとおして年代を決定することもできるし、年代のわかる出土物とともに発掘された貨幣の場合はその出土物から年代を決定することができる²。

■発行年代と地域が特定されている貨幣はさまざまに利用される。上で述べたこととは逆に、年代がわからない文物に銘があるばあい年代がわかる貨幣の文字との比較をとおして文物の年代を予想することができるし、年代がわかる貨幣と共に発掘された出土物の年代

² 貨幣製造の時代と場所の決定法については、アト・リュウ・バーネット 1998 の第 2 章「年代決定と特徴」が参考となる。もっとも、当該書は古代ローマの貨幣を主資料とする。

を予想することもできる。

このような年代と地域が特定された貨幣の効用は文字・銘文の研究にも及ぶ。これによって、規範的な字形や正書法および表現形式の変遷を年代をおって調査することができるし、貨幣銘文の表現形式の変遷が同時代の政治や経済や宗教などの変化と連動しているばあいもある³。

【参考文献（発行年順）】

アンドリュー・バーネット著/新井佑造訳 1998. 『大英博物館双書⑥古代を解き明かす コインの考古学』 學藝書林。

吉池孝一 2002. 「貨幣文字考 一西夏文字一」, 『東洋哲学研究所紀要』 第 17 号, (82)-(94) 頁。

中村雅之 2004. 「カローシュティエー文字貨幣 3 種」, 『KOTONOHA』 第 22 号, 1-3 頁。

(文責：吉池孝一 2010. 3. 16)

³ 吉池 2002 は西夏国で発行された西夏文字銭の銘文の変遷と政治状況との関連について言及したものである。